

### 消費動向に関するアンケート調査 (2022年8月期)

#### 調査結果の概要

- 現在の生活満足度の平均は、10点満点中岐阜県 5.4 点、愛知県 5.6 点。1年前と比較した暮らし向きは引き続き悪く、前年調査との比較では、岐阜県で悪化、愛知県で改善。
- 全体の消費支出 DI の前年調査比上昇幅は、いずれの地域でも 2 桁にのぼったのに対して、収入 DI は引き続きマイナスで、愛知県の改善幅は 1 桁に満たなかった。
- 費用項目別 DI のうち、前年調査と比較して上昇が大きかったのは「交通費（ガソリン代など）」、「旅行・レジャー費」、「外食費」などで、エネルギー価格の高騰や行動制限緩和の影響があらわれている。

#### 調査要領

- 調査方法 インターネットによるアンケート調査
- 調査内容 生活満足度、暮らし向き、収入、消費支出
- 調査期間 2022年8月10日～12日
- 回答状況 有効回答 1,260 名 回答者の内訳は以下のとおり

#### 回答者の内訳

地域別	(人, %)			
	男性	女性	計	構成比
岐阜県	210	210	420	33.3
愛知県	210	210	420	33.3
全国	210	210	420	33.3
合計	630	630	1,260	100.0

年齢別	(人, %)											
	岐阜県				愛知県				全国			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
30歳未満	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
30歳代	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
40歳代	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
50歳代	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
60歳以上	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
合計	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0

未婚・既婚の別	(人, %)											
	岐阜県				愛知県				全国			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
未婚	85	73	158	37.6	96	69	165	39.3	84	70	154	36.7
既婚	125	137	262	62.4	114	141	255	60.7	126	140	266	63.3
合計	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0

職業別	(人, %)											
	岐阜県				愛知県				全国			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
公務員	20	5	25	6.0	15	4	19	4.5	11	6	17	4.0
経営者・役員	6	0	6	1.4	3	1	4	1.0	8	1	9	2.1
会社員	112	56	168	40.0	125	59	184	43.8	107	56	163	38.8
自営業・自由業	22	6	28	6.7	12	7	19	4.5	24	10	34	8.1
専業主婦(主夫)	1	64	65	15.5	2	75	77	18.3	2	66	68	16.2
パート・アルバイト	12	60	72	17.1	15	51	66	15.7	16	50	66	15.7
学生	6	5	11	2.6	9	2	11	2.6	8	4	12	2.9
その他	5	4	9	2.1	6	2	8	1.9	6	6	12	2.9
無職	26	10	36	8.6	23	9	32	7.6	28	11	39	9.3
合計	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0

(注) 端数を四捨五入しているため、内訳の合計等が合致しない場合がある。

# 1. 生活満足度

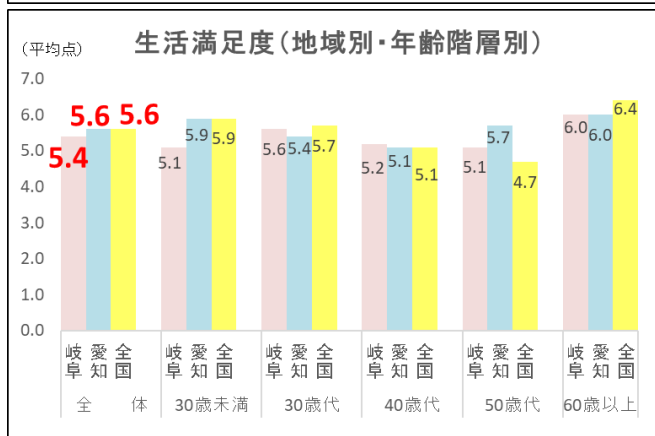
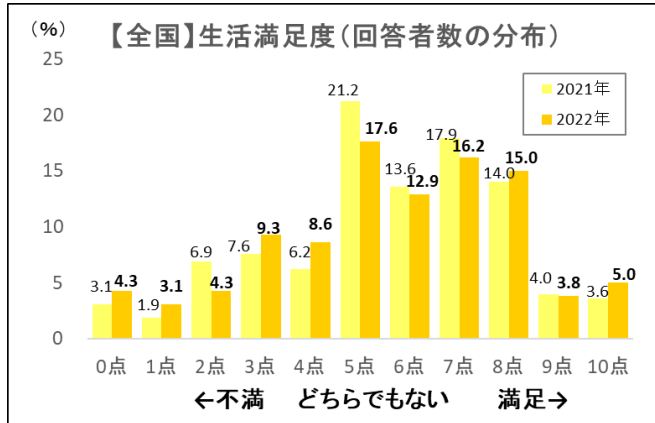
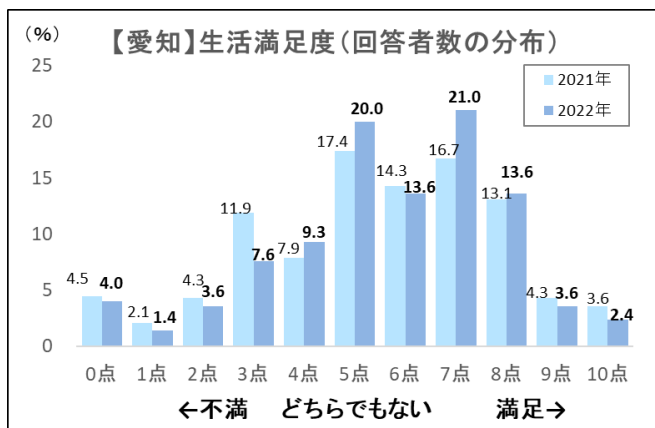
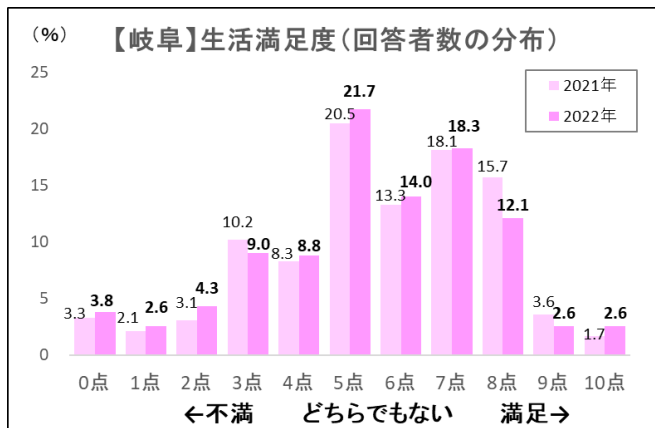
現在の生活にどの程度満足しているかについて、「とても満足」を10点、「どちらでもない」を5点、「とても不満」を0点とすると、何点くらいになると思うかを尋ねた。

回答の分布では、岐阜県と全国では「5点」、愛知県では「5点」および「7点」と回答した割合が高かった<sup>(※1)</sup>。愛知県で「7点」と回答した割合は4.3%増と、前年と比較して最も改善幅が大きかった。

生活満足度の平均点は、岐阜県が5.4点（前年調査比0.2点減）、愛知県が5.6点（同0.1点増）、全国が5.6点（同変化なし）であった。

「0点～4点（不満）」と回答した割合は、岐阜県が28.6%（前年調査比1.5%増）、愛知県が26.0%（同4.7%減）、全国が29.5%（同3.8%増）、「6点～10点（満足）」と回答した割合はそれぞれ49.8%（同2.6%減）、54.0%（同2.1%増）、52.9%（同0.2%減）であった。岐阜県は満足と回答した割合が半数を下回った一方、愛知県は不満と回答した割合が大きく低下した。

地域別・年齢階層別の生活満足度の平均をみると、満足度が低い年代は各地域でばらつきがあったが、満足度が最も高い年代は、いずれの地域でも60歳以上であった。



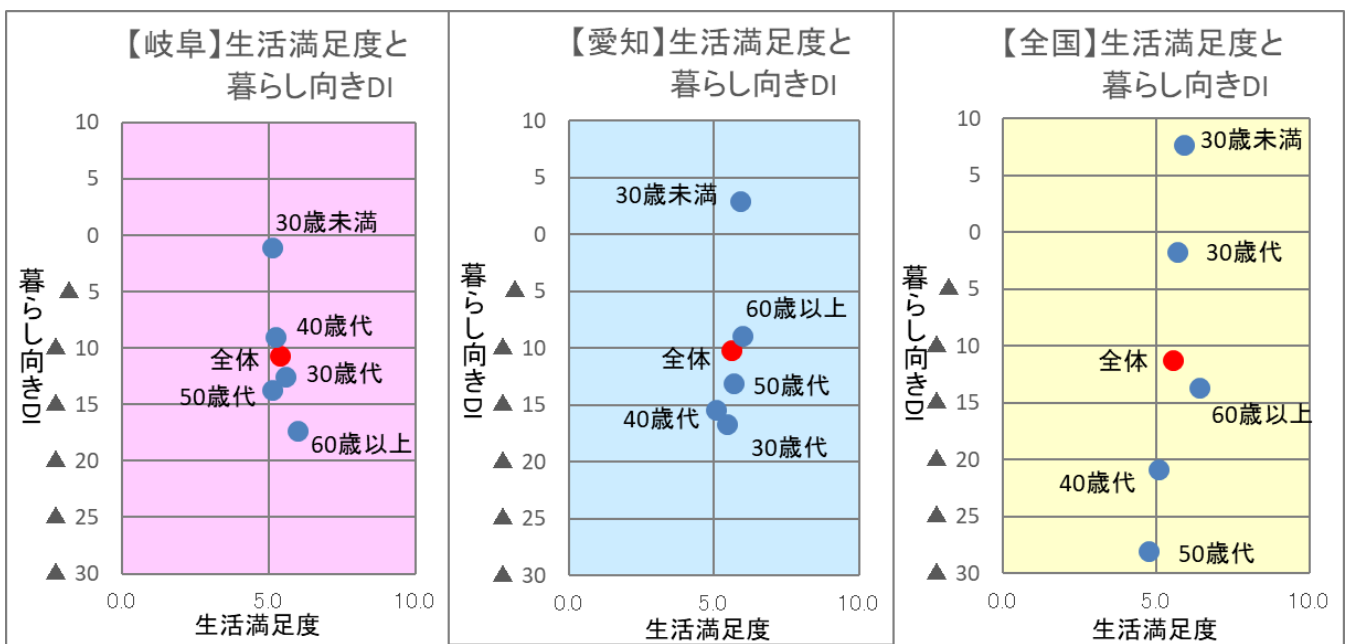
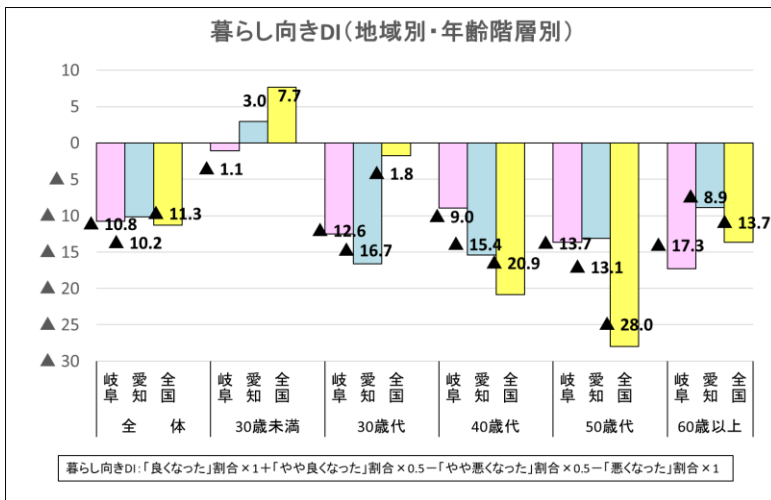
## 2. 暮らし向き

1年前と比較した現在の暮らし向きについて、「良くなった」を1点、「やや良くなった」を0.5点、「不変」を0点、「やや悪くなった」を▲0.5点、「悪くなった」を▲1点とウエイト付けし、各項目の回答者数割合を乗じてDIを算出した。

暮らし向きDIは、岐阜県が▲10.8（前年調査比3.8ポイント減）、愛知県が▲10.2（同3.1ポイント増）、全国が▲11.3（同0.5ポイント減）と引き続きマイナスであるが、前年調査と比較すると岐阜県と全国が悪化した一方、愛知県は改善した。

地域別・年齢階層別にみると、DIがプラスとなったのは愛知県と全国の30歳未満のみで、それ以外ではすべての年齢・地域においてマイナスであった。最も高かったのは全国の30歳未満で7.7、最も低かったのは全国の50歳代で▲28.0であった。全国との比較では、岐阜県と愛知県は年齢階層による暮らし向きのばらつきが小さい。

生活満足度と暮らし向きDIの関係を見ると、各地域とも生活満足度は年代による違いは小さく中位付近に集中しているが、暮らし向きDIは年齢によってばらつきがみられ、特に全国でその傾向が顕著である。また、いずれの地域でも30歳未満の暮らし向きDIが高い傾向にある。収入面をみると、30歳未満は収入が増加したと回答した割合がいずれの地域でも2割を超えており（次頁「収入DI（地域別・年齢階層別）」グラフを参照）、収入の増えた人が相対的に多いことが、暮らし向きDIの高さの一因となっていると考えられる。



### 3. 収入と消費支出

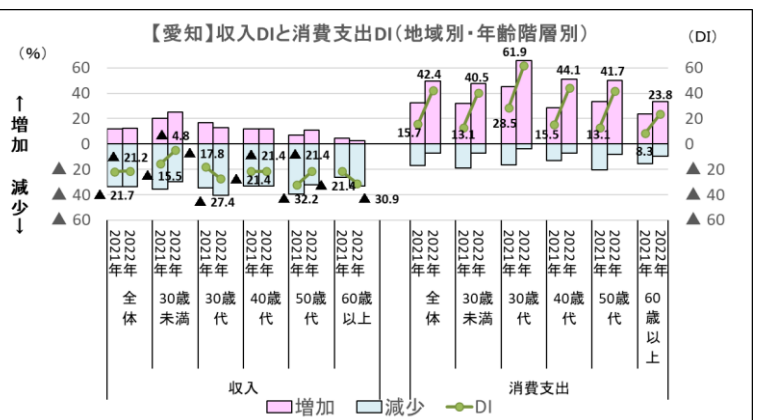
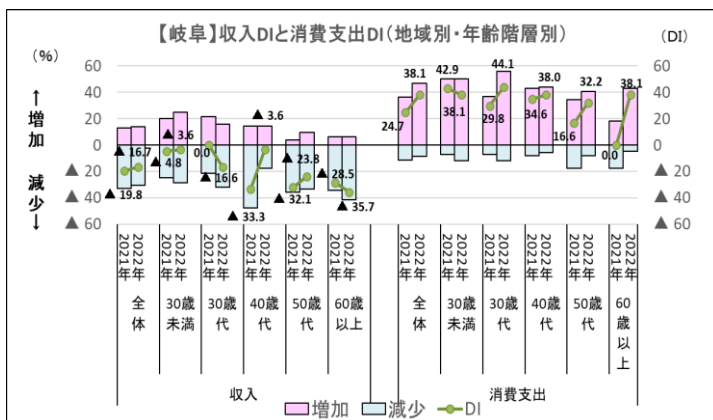
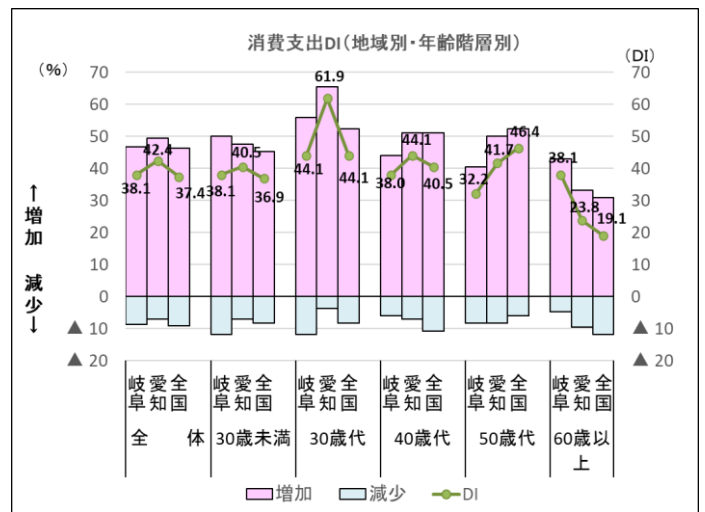
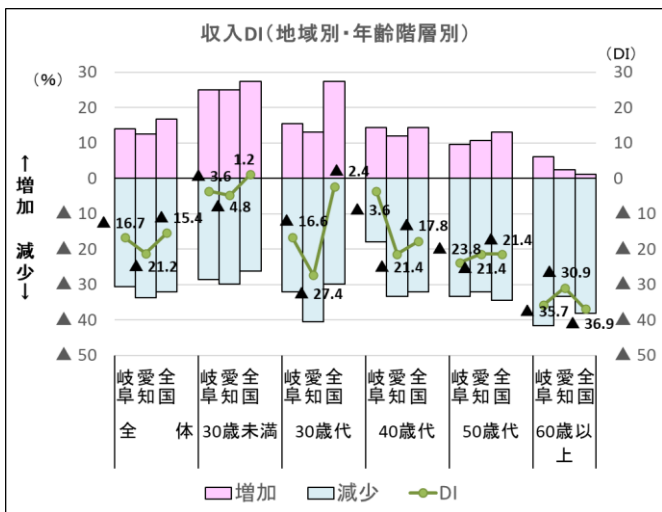
収入DI<sup>(※2)</sup>は、全体では岐阜県が▲16.7（前年調査比3.1%増）、愛知県が▲21.2（同0.5%増）、全国が▲15.4（同6.7%増）といずれの地域でも改善した。

地域別・年齢階層別の収入DIをみると、最も大きかったのは、岐阜県が30歳未満と40歳代、愛知県と全国が30歳未満であった。また、最も小さかったのは、いずれの地域でも60歳以上であった。

消費支出DIは、岐阜県が38.1（前年調査比13.4%増）、愛知県が42.4（同26.7%増）、全国が37.4（同17.2%増）となった。

地域別・年齢階層別の消費支出DIをみると、最も大きかったのは、岐阜県と愛知県が30歳代、全国が50歳代であった。最も小さかったのは、岐阜県が50歳代、愛知県と全国が60歳以上であった。

地域別・年齢階層別に前年調査と比較すると、消費支出DIは岐阜県の30歳未満を除くすべての地域・年代において上昇しており、特に岐阜県の60歳以上が38.1%増、愛知県の30歳代が33.4%増と大幅に上昇した。



※2: 収入DI、消費支出DIおよび費用項目別DIは、「増加」「不変」「減少」の選択肢のうち、「増加」と回答した割合から「減少」と回答した割合を差し引いて算出した。

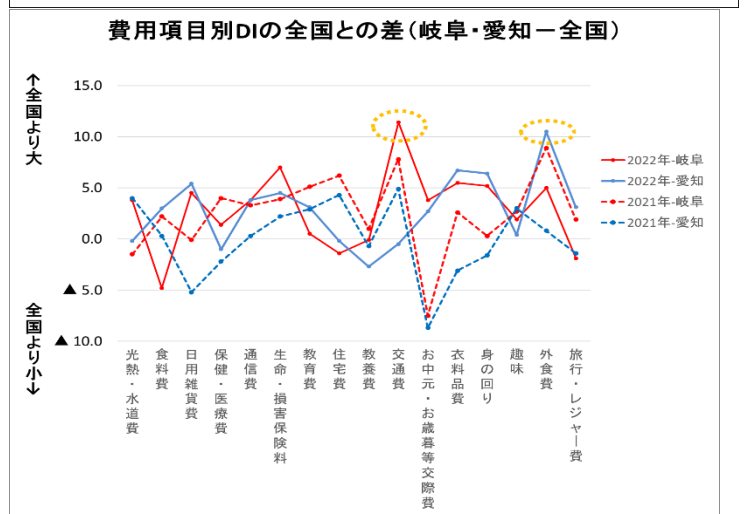
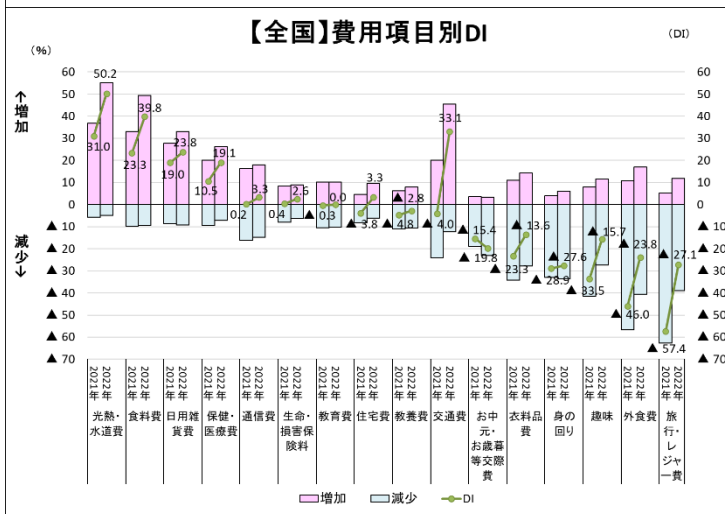
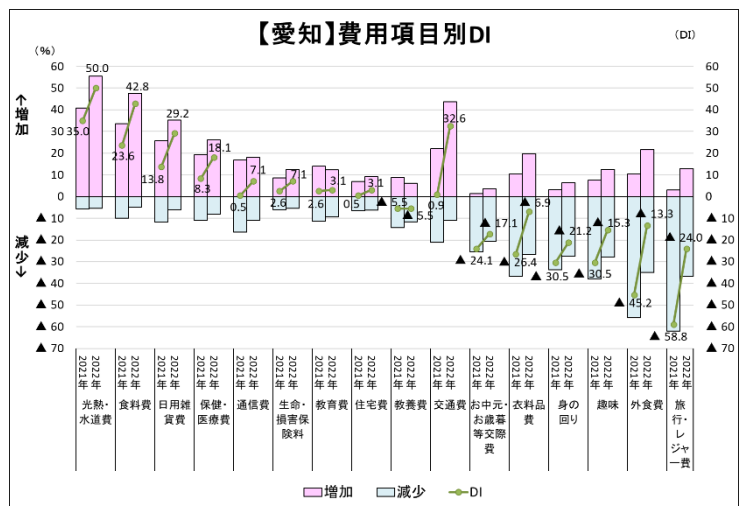
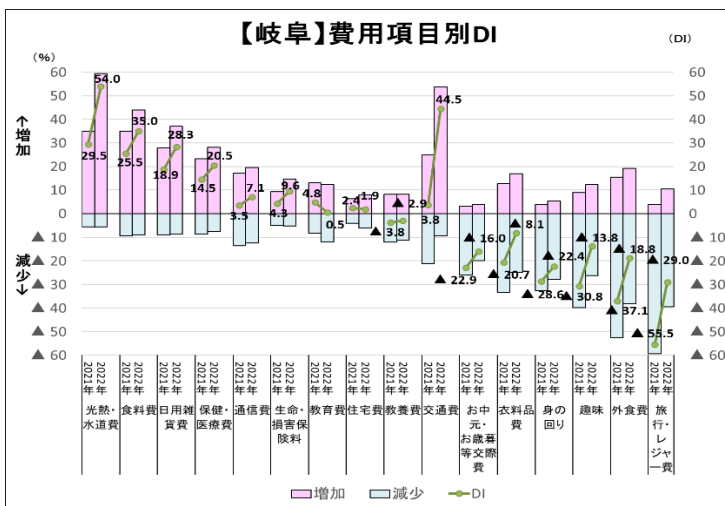
## 4. 費用項目別 DI

費用項目別の支出について1年前と比べてどのように変化したかを尋ね、DIを算出した。

いずれの地域でもほとんどの費用項目でDIが上昇した。ガソリン価格の高騰などにより「交通費」が大きく上昇した。また、「旅行・レジャー費」、「外食費」、「趣味」なども大きく上昇したが、本調査を行った2022年8月は、3年ぶりの行動制限を伴わない夏であり、昨年と比較してこれらの支出を抑える人が減少したことが要因と考えられる。

費用項目別DIについて、全国と岐阜県・愛知県との差、およびその変化をみると、最も差が大きかったのは岐阜県が「交通費」、愛知県が「外

食費」であった。経済産業省が実施する給油所小売価格調査によれば、調査日近辺のガソリン価格（1リットルあたりのレギュラー現金価格）は岐阜県と全国ではあまり差がない。にもかかわらず「交通費」DIの差が大きかったのは、岐阜県は全国的にみて自家用自動車の普及率が高く、ガソリン価格高騰の影響が広く及んだためと考えられる。また、従来から愛知県は全国と比較して「外食費」DIが高い傾向にあったが、昨年はコロナ感染拡大第5波のさなかにあり「外食費」の水準が低く抑えられていたため、全国との差が小さかった。今年は緊急事態宣言やまん延防止等重点措



置などの行動制限がなかったため、外食への支出が戻ったと考えられる。

## 5. 終わりに

今回の調査では、前年調査と比較して消費支出 DI の上昇が顕著であった。考えられる理由は二つある。一つ目は、今年に入り加速した資源・原材料価格の高騰と円安による物価上昇だ。エネルギー関連や食料品など、生活必需品の値上げの影響は大きく、特にガソリン代を含む交通費の上昇が大きかった。二つ目は、3年ぶりに行動制限がない夏であったことだ。前年調査時点はコロナ感染拡大第5波のさなかにあり、外出を自粛する人が多かったが、今年是全国的に行動制限がなく、外食費や旅行・レジャー費など主に外出型の支出を抑える動きが和らいだと考えられる。今回調査の消費支出 DI 上昇の背景には、生活必需品の値上げの受入れを強いられた受動的な支出増加と、コロナ禍での外出機会を捉えた消費の回復という二つの面があったといえるだろう。

一方で、収入 DI は消費支出 DI ほど上昇してい

ない。いずれの地域でも、全体の収入 DI は前年調査から上昇したものの、その上昇幅はわずかであり、2桁の上昇幅をみせた消費支出 DI には遠く及ばない。

全国の全体の暮らし向き DI は、前年調査と比較して低下している。その一因として、生活物資の値上げが続いていることや、物価上昇を補えるほど賃金が上昇せず、実質賃金が目減りしていることなどがあげられる。また、家計の動向によってのみ左右されるわけではないが、生活満足度でも前年と比較して不満と回答した割合が増加した一方、満足と回答した割合は減少した。物価上昇と賃金の伸び悩みに伴う実質賃金の目減りは、今後も長期にわたって個人消費を冷え込ませる可能性があるため、早急な対策が望まれる。

(研究員 萩原 綾子)